

# 大学生の化粧行動に関する性差

## ～調査からみる要因と影響～

菊地美香子（文教大学情報学部広報学科）

### 1. はじめに

今日、男女平等の考え方が浸透し、女性の社会進出など様々な制度や法整備が行われてきた。1986年の男女雇用機会均等法や1992年の育児休業制度が施行された。

しかし、内閣府が社会全体における男女の地位の平等感を調査した結果、2012年時点で「男性の方が優遇されている」とする人の割合が74.0%（「男性の方が非常に優遇されている」とする人の割合が30.0%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」44.0%）、「平等」と答えた人の割合が18.6%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合が1.2%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」0.9%+「女性の方が非常に優遇されている」0.3%）であった（内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」）。この事例が示すように、未だ男女が平等であるとは考えにくい。法整備が整いつつあるとはいえ、人々は男女ともに男性が優遇されていると考えている人が多く、女性の社会的地位は低いことが推測できる。

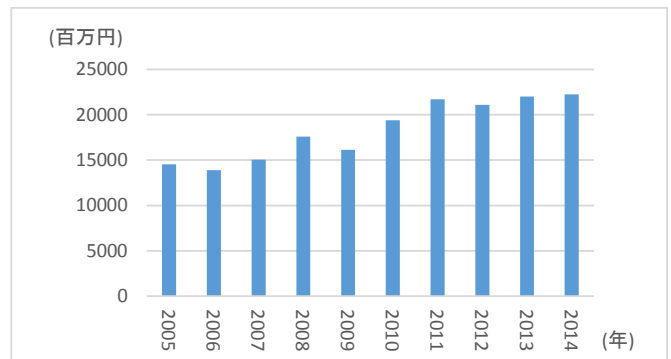
では、このことから男女で考えや行動に違いが生じることはないのだろうか。昨年履修した「社会調査Ⅱ」の授業で「結婚はすべきか」というテーマで調査したところ、男女で考え方に差がみられた。そこで、今年度の「社会調査Ⅲ」では、結婚のほかにも、男女で考え方に差があるものを調査しようと考えた。そこで、考え付いたのが化粧である。

化粧とは、基本的には「ある集団＝社会がもつ美意識に基づいて顔やからだに意図的に手を加えて、外見的にも内面的にもそれまでの自分とは異なる自分になるようとするための行為」であるという（大坊、2001）。今日、化粧をする人の多くが女性である。近年では男性用化粧品なども販売されるようになり、男性が化粧をする環境は整いつつあるように考えられる。

図表-1は男性皮膚用化粧品の販売額を表したものである（経済産業省「化学工業統計」）。2005年から2014年までの販売額の推移を見てみると、増加傾向にあることが見て取れる。男性化粧品の規模自体は小さいものの今後さらに伸びが期待できる。

そのような状況において、現在も化粧をする学生の大半が女性であるのはなぜなのだろうか。そこにはどういった要因が影響しているのか。

図表-1. 男性皮膚用化粧品の販売額



※経済産業省「化学工業統計」

化粧をする人の大半が女性であることの要因として考えたのが大きく分けて2つである。ひとつは、「ジェンダー規範」の影響だ。以前までは、日本には「男は仕事、女は家事」という考え方が根強く残っていたが、先述したように近年では女性の社会進出が進み、男女は平等になったように思われる。しかし、「夫は外で働き、妻は家を守るべきである」という考え方にに関する意識の変化（内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成25年版」）を見てみると、「夫は外で働き、妻は家を守るべきである」と考える人は減少傾向にあるが、平成24年10月の時点では男女ともにまだ半数近く「賛成」あるいは「どちらかといえば賛成」と回答している。「男性（女性）はこうあるべき」という考え方がまだ残っており、化粧行動はそういった固定観念に縛られているのではないかと。

もうひとつの要因として考えたのは、対人魅力の考え方の違いによるものだ。「対人魅力」とは、他者に対する好意的または非好意的な態度である。態度は感情的要素・認知的要素・行動的要素が含まれる（Rosenberg.M.J、1960）。相手の顔立ちやスタイルの良さなどに魅力を感じる人と相手の表情や印象の良さなどに魅力を感じる人では、化粧行動に関する考え方も異なってくるのではないだろうか。どのような人に魅力を感じるかということから対人魅力に関する考え方を分析し、化粧行動に対する考え方への影響を考えてみたい。

## 2. 調査方法

### 2-1. 調査研究の経緯

4～7月	調査テーマ討論 文献調査による情報収集
8～9月	調査テーマ決定
10～11月	調査票作成
12月	本調査実施
1～2月	集計・分析、報告書作成

### 2-2. 調査の概要

#### 2-2-1. 調査の意図

大学生を対象に男女間の化粧に対する意識の違いを調査する。

#### 2-2-2. 調査対象者

文教大学湘南キャンパス学生  
2015年度秋学期「クロスメディア・コミュニケーション」、  
「テーマパーク事業論」、「プレゼミナールA」受講生

#### 2-2-3. 調査方法

質問紙による自記式の集合調査を授業時に実施

#### 2-2-4. 調査回答者概要

配布数 195  
有効回答数 150  
回収率 77%  
質問項目のQ3・Q4、Q11が全て同一回答であったもの、  
Q6の回答方法に誤りがあるものは無効とした。

#### 2-2-5. 主な質問項目

本調査では、調査対象者の混乱を避けるため、化粧を「化粧品を用いて顔（目、眉毛、まつ毛、唇、肌など）に意図的に手を加えること」とした。

##### ・化粧行動に対する考え

調査対象者の化粧行動の有無や頻度、化粧行動にどのような考えを持ち、それが自らの化粧行動とどう関連しているのかについて尋ねる質問項目を作成した。

##### ・対人魅力について

質問項目を作成するにあたり、「女子学生における自己魅力意識と対人態度との関連」（伊藤・伊藤、2009）を参考にした。

##### ・性・ジェンダーについて

ジェンダー規範を調べるにあたり、「平等主義的性役割態

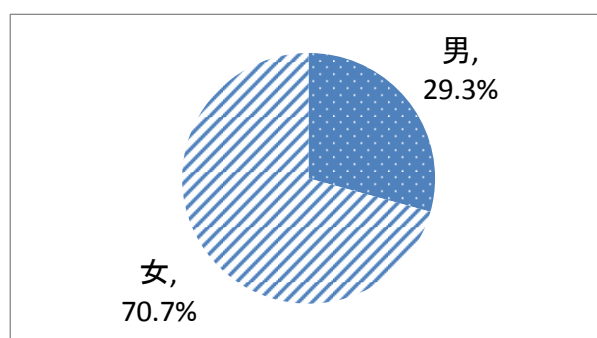
度スケール短縮版」（鈴木、1994）、「高校生における性差観の形成環境と性役割選択」（伊藤、1997）の質問項目を引用した。

## 3. 調査結果と考察

### 3-1. 回答者の特性と化粧行動

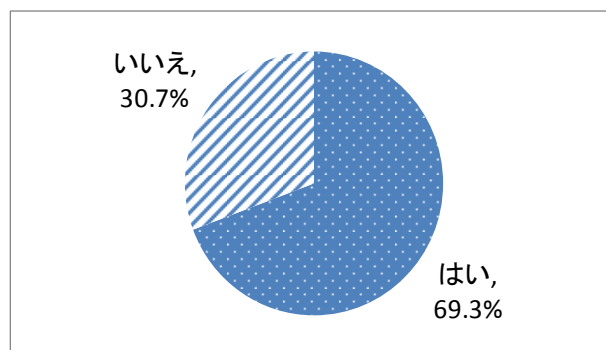
図表-2は回答者の男女比を表したものである。男性が約30%、女性が約70%という割合になっている。国際学部で調査した際の女性の履修者が多かったためと考えられる。

図表-2. 回答者の男女比 (N=150)



次に図表-3は化粧行動の有無を示したものである。「あなたは化粧をしますか」という質問に対し、「はい」が約70%、「いいえ」が約30%という結果になった。

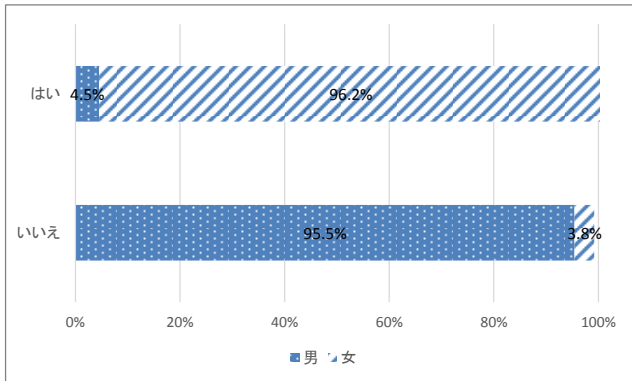
図表-3. 普段化粧をしているか (N=150)



男女で化粧をしている人の割合を比較してみると、1%水準で有意な差が見られた( $\chi^2(1)=122.918, p<.01$ )。男性は化粧をしている人の割合が4.5%で、化粧をしていない人の割合が95.5%であった。

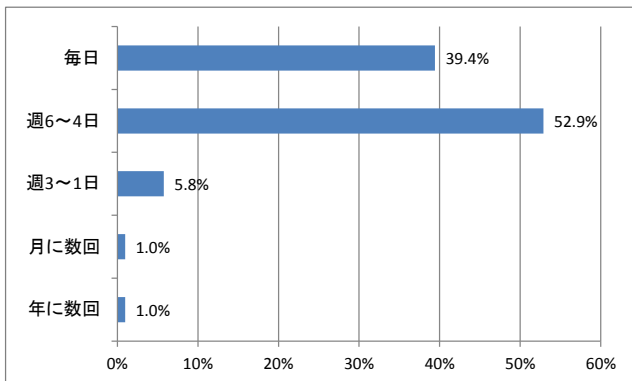
それに対して女性は、化粧をしている人の割合が96.2%、化粧をしていない人の割合は3.8%であった。やはり男性で化粧をしている人の割合は非常に少なく、化粧をしている人の大半が女性という結果になった。

図表-4. 【男女別】 普段化粧をしているか (N=150)



化粧をしていると回答した人に、化粧行動の頻度について尋ねた。その結果が図表-5である。「毎日」と回答した人が39.4%、「週6回～週4回」と回答した人が52.9%、「週3回～週1回」と回答した人が5.8%、「月に数回」と回答した人が1.0%、「年に数回」と回答した人が1.0%という結果となった。化粧をしていると回答した人の大半が高い頻度で化粧をしていることが分かる。

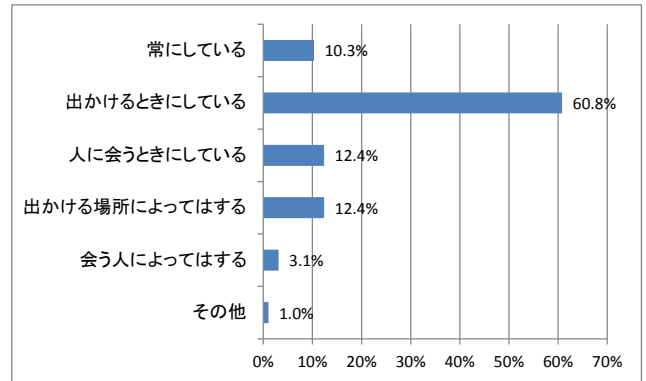
図表-5. 化粧行動の頻度 (N=104)



※化粧をしている人のみ回答

次にいつ化粧をしているかについて尋ねた。「毎日」している、または「週6回～週4回」していると回答した人が多い中、「常にしている」と回答した人は10.3%と少なかった。60.8%と高い割合を占めたのが「出かけるときにしている」と回答した人である。「人に会うときにしている」と回答した人が12.4%、「出かける場所によってはする」が12.4%、「会う人によってはする」が3.1%、「その他」を選んだ人が1.0%であった。

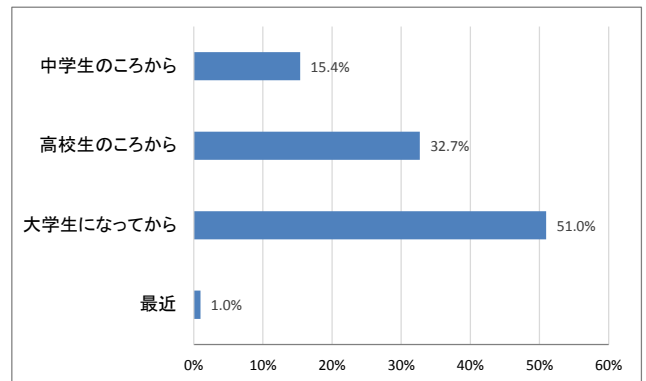
図表-6. 化粧をするとき (N=97)



※化粧をしている人のみ回答

図表-7は化粧を始めた時期を示したものである。「中学生のころから」と回答した人が15.4%、「高校生のころから」が32.7%、「大学生になってから」が51.0%、「最近」が1.0%という結果であった。

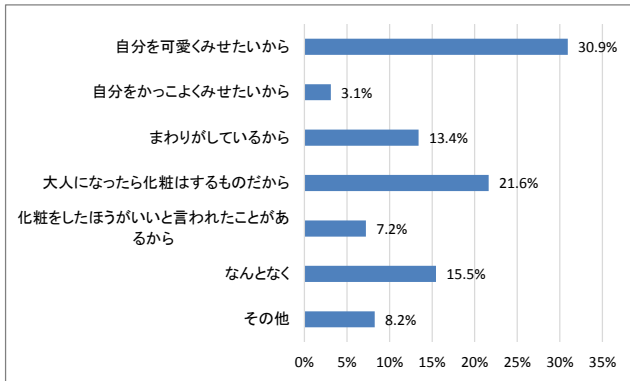
図表-7. 化粧行動開始の時期 (N=104)



※化粧をしている人のみ回答

図表-8は化粧をする理由を示したものである。「自分を可愛くみせたいから」と回答した人が30.9%、「自分をかっこよくみせたいから」が3.1%、「まわりがしているから」が13.4%、「大人になったら化粧はするものだから」が21.6%、「化粧をしたほうがいいと言われたことがあるから」が7.2%、「なんとなく」が15.5%、「その他」が8.2%という結果になった。

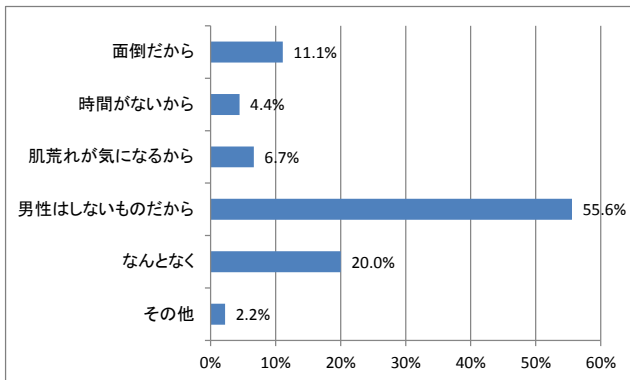
図表-8. 化粧をする理由 (N=97)



※化粧をしている人のみ回答

次の図表-9は化粧をしていないと回答した人にその理由について尋ねた結果を示したものである。最も多かったのが「男性はしないものだから」と回答した人で55.6%であった。「面倒だから」と回答した人は11.1%で、「時間がなから」が4.4%、「肌荒れが気になるから」が6.7%、「なんとなく」が20.0%、「その他」が2.2%という結果になった。

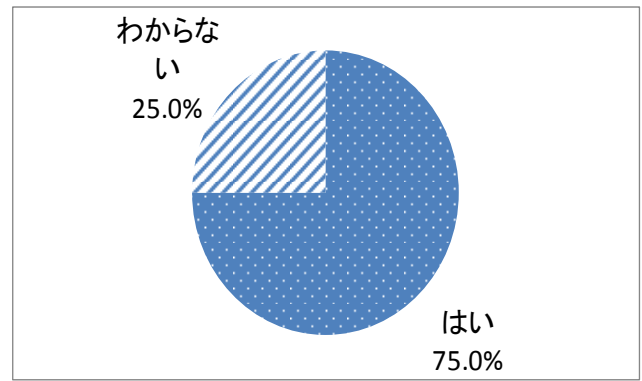
図表-9. 化粧をしない理由 (N=45)



※化粧をしていない人のみ回答

図表-9の回答を踏まえて図表-10をしてみる。図表-10は男性に「あなたが女性であった場合、化粧をすると思いますか」と尋ねた結果、「はい」と回答した人が75%、「わからない」が25%であった。「いいえ」と回答した人はおらず、自分が女性であったら化粧をしなければならないという考えを持っている男性が多いことが分かる。

図表-10. 女性であった場合化粧をするか (N=44)



※男性のみ回答

次に化粧をしている人についてどう感じているのかについて見ていきたい。

本調査では、女性の化粧行動に関する質問項目を6つ設け、そのうち「社会的評価」「外見的評価」「主観的評価」の3つに分けた。男女差を見るため、独立したサンプルのt検定を行ったところ、図表-11のような結果になった。図表-5から化粧行動に対する考えでいくつか男女で差があることがわかる。

まず、有意差が見られたものは「外見的評価」2つと「主観的評価」の2つである。

「外見的評価」にあたる質問項目は「女性は化粧をしたほうがかわいく見える」「女性は化粧をしたほうがきれいに見える」である。男女の差を見るためにt検定を行った結果、「女性は化粧をしたほうがかわいく見える」という質問項目に男女で有意な差が見られた( $t(148)=2.408, p<.05$ )。この結果から、男性よりも女性のほうが女性は化粧をしたほうがかわいいと考えている人の割合が高いことが示された。また「女性は化粧をしたほうがきれいに見える」という質問項目の男女差を見るためにt検定を行ったところ、こちらも有意な差が見られた( $t(62)=2.536, p<.05$ )。この結果から、男性よりも女性のほうが女性は化粧をしたほうがきれいに見ると考えている人の割合が高いことが示された。

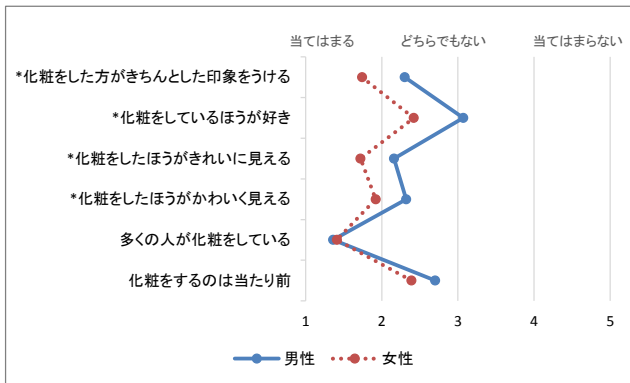
「外見的評価」の項目と化粧をしている女性が多いという結果から、女性は化粧行動によって外見的评价が高くなると思い化粧をしていることが考えられる。

次に「主観的評価」の項目である。「化粧をしている女性のほうが好き」「化粧をしている女性はきちんとした印象を受ける」について見ていく。「化粧をしている女性のほうが好き」という考えについて男女差を見るためt検定を行った結果、有意な差が見られた( $t(148)=3.819, p<.01$ )。この結果から、男性よりも女性のほうが化粧をしている女性のほうが好きと考える人の割合が高いことが示された。「化粧をし

ている女性はきちんとした印象を受ける」について男女差を見るt検定を行ったところ、こちらにも有意な差が見られた( $t(59)=3.260, p<.01$ )。この結果から、男性よりも女性のほうが化粧をしている女性のほうがきちんとした印象を受けると考える人の割合が高いことが示された。「主観的評価」の項目から、男性よりも女性のほうが化粧をしている女性から好印象を受けていることが分かった。

「社会的評価」に分類した「女性が毎日化粧するのは当たり前である」、「女性の多くは化粧をしている」には男女で有意な差は見られなかったが、「女性が毎日化粧するのは当たり前である」の男性の平均値は2.7であった。図表-10で自分が女性であった場合は化粧をすることを考えている人が多いものの、女性が化粧をすること自体は当たり前と感じていないようである。

図表-11. 化粧行動に対する考え (N=150)



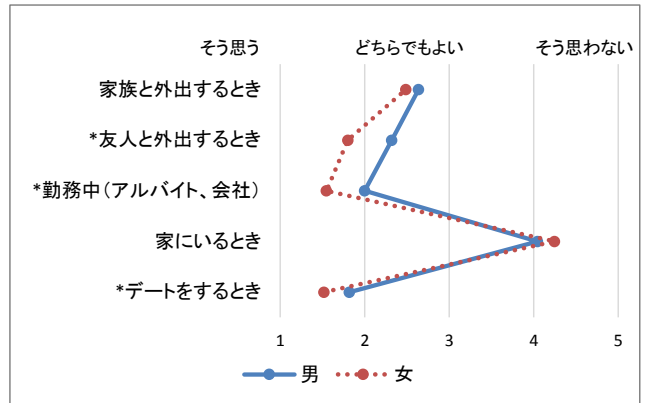
※「化粧したほうがきれいに見える」のみ N=149

※1...「当てはまる」、2...「やや当てはまる」、3...「どちらでもない」、4...「やや当てはまらない」、5...「当てはまらない」

次は女性の化粧行動に対する考えを状況別にみていく。図表-12は、女性は化粧をすべきであるかについて状況別に尋ねた結果を、男女差を見るために独立したサンプルのt検定を行ったものを示したものである。

有意差が見られたのは、「デートをするとき」( $t(148)=2.152, p<.05$ )「勤務中(アルバイト、会社)」( $t(148)=3.131, p<.01$ )「友人と外出するとき」( $t(147)=3.602, p<.01$ )である。これらはすべて女性のほうが男性よりも割合が高いことが示された。

図表-12. 【状況別】女性は化粧をすべきか (N=150)



※「家にいるとき」「友人と外出するとき」「家族と外出するとき」は N=149

※1...「そう思う」、2...「ややそう思う」、3...「どちらともいえない」、4...「あまりそう思わない」、5...「そう思わない」

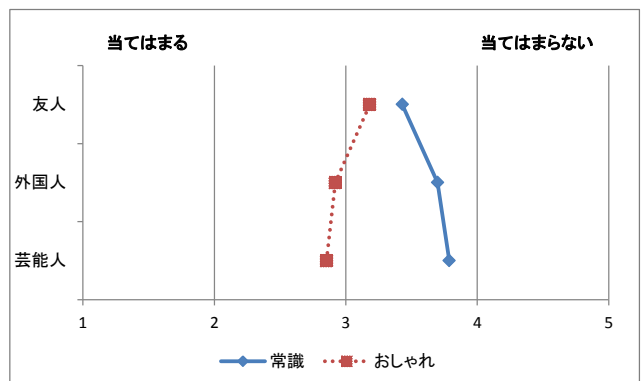
図表-13は化粧をする男性をどう考えるかについて「芸能人」、「外国人」、「友人」という場合に分けて「常識はずれである」、「おしゃれである」と考えるかの2項目について平均値を一元配置の分散分析を行った結果を示したものである。

「常識はずれである」( $F(447)=4.326, p<.05$ )、「おしゃれである」( $F(447)=3.755, p<.05$ )ともに有意な差が見られた。

「常識はずれである」の項目に回答した人の平均値は「芸能人」で3.79、「外国人」で3.70、「友人」で3.43であった。「おしゃれである」の項目に回答した人の平均値は「芸能人」で2.85、「外国人」で2.92、「友人」で3.18であった。

図表-13から、男性の化粧行動は身近な存在の人であればより常識はずれだと感じ、自分から遠い存在であればよりおしゃれだと感じる人が多いことが示された。

図表-13. 男性の化粧行動に関する考え (N=150)



※「当てはまる」...1-2-3-4-5...「当てはまらない」

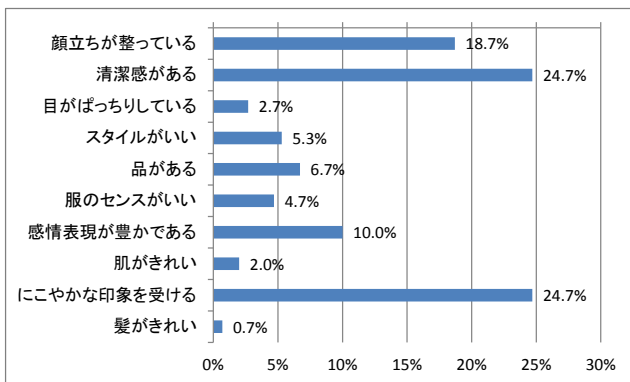
※「外国人」「友人」は N=149

化粧をする男性に対する考え方について、男女差を見るためにt検定を行ったが、有意な差は見られなかった。化粧行動において男女で考え方が異なることは、女性が化粧をしている場合についてのみだということがこの結果から考えられる。

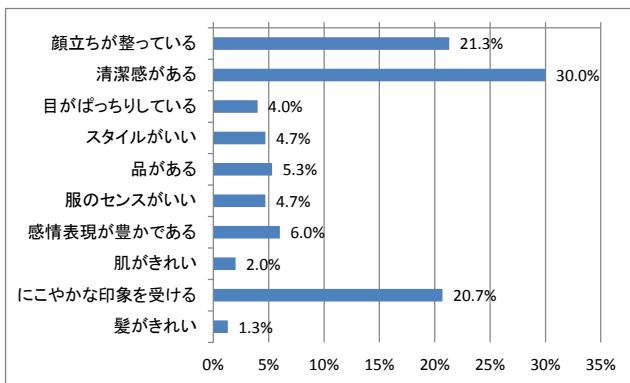
### 3-2. 化粧行動と対人魅力

図表-14、図表-15では回答者の対人魅力に関する質問項目の結果を表している。図表-14が同性に対するもので、図表-15が異性に対するものだ。「あなたはどんな人が魅力的だと思いますか」という問いに、各々上位5項目に回答してもらった。「清潔感がある」と回答したのが同性に対しては24.7%、異性に対しては30.0%と一番多い結果となった。次いで「顔立ちが整っている」が同性に対して18.7%、異性に対して21.3%、「にこやかな印象を受ける」が同性に対して24.7%、異性に対して20.7%という結果となった。顔、外見全体、印象という様々な視点から、人は相手に対する魅力を感じていることがわかる。さらに、どんなひとが魅力的かということに関しては同性、異性で魅力を感じる箇所に差は見られないことがいえるだろう。

図表-14. 対人魅力<<同性>> (N=150)



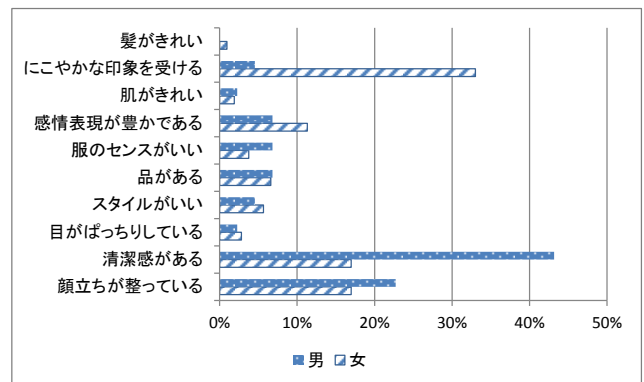
図表-15. 対人魅力<<異性>> (N=150)



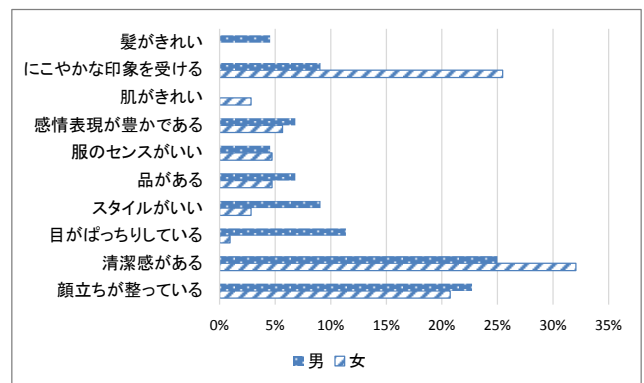
対人魅力を男女別に見てみる。図表-14、図表-15の選択肢における上位5項目に回答してもらったもののうち、回答者が1位と回答したものに絞り性別と掛け合わせた。その結果が図表-16、図表-17である。

同性に対する対人魅力の男女差を見るためにカイ<sup>2</sup>乗検定を行った。その結果、5%水準で有意な連関が見られた( $\chi^2(9)=21.220, p<.05$ )。また同様に、異性に対する対人魅力の男女差を見るためにカイ<sup>2</sup>乗検定を行った結果、1%水準で有意な連関が見られた( $\chi^2(9)=22.057, p<.01$ )。図表-16で示されているように同性に対して男性は「清潔感がある」、女性は「にこやかな印象を受ける」と回答した人が最も多い。また図表-17で示されているように異性に対して「清潔感がある」「顔立ちが整っている」は男女とも割合が高いが、女性のみ「にこやかな印象を受ける」と回答している人の割合が高い。また、いくつかの項目で回答者が男性のみ、女性のみが回答しているものがある。男女で異性に対する対人魅力を感じる箇所は異なることが分かった。

図表-16. 【男女別】対人魅力<<同性>> (N=150)



図表-17. 【男女別】対人魅力<<異性>> (N=150)



### 3-3. 化粧行動とジェンダー規範

ジェンダー規範に関する20項目の質問に対して、それぞれの平均得点を算出し、バリマックス回転を用いて主成分

分析による因子分析を行った。その結果が図表-18、図表-19である。

因子分析の結果5つの因子が検出された。

第1因子には、「結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである」や「女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職場である」など「性別役割分業」に関わるものなどが高い因子寄与率で抽出された。

第2因子には、「男性は弱音を吐くものではない」や「家事は男女の共同作業となるべきである」など「男性の在り方」に関するものが抽出された。

第3因子には「女性は男性にくらべ、感情的である」と「男性と女性は本質的に違う」という「男女の相違点」に関するものが抽出された。

第4因子には「人前では、妻は夫を立てたほうがよい」と「女が人前でタバコを吸うのは好ましくない」という「女性の在り方」に関するものが抽出された。

第5因子には「女性は子どもが生まれても、仕事を続けたほうがよい」と「結婚後、妻は必ずしも夫の姓を名乗る必要はなく、旧姓で通してもよい」という「結婚・出産後の女性」に関するものが抽出された。

図表-18. 因子分析結果-1 (N=150)

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	平均
結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである	.786	-.188	-.034	.225	-.214	3.81
女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職場である	.785	-.026	.125	.001	.156	3.98
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大切である	.702	.368	-.016	.235	.222	3.31
女性が社会的地位や賃金の高い職業を持つと結婚するのがむずかしくなるから、そういう職業を持たない方がよい	.641	.182	.133	-.036	-.101	4.15
子育ては女性にとって一番大切なキャリアである	.584	.343	.107	.123	.255	2.99
家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う	.558	-.303	.018	.455	-.267	3.25
体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない	.550	.282	.098	.117	.267	3.50
男性はむやみに弱音を吐くものではない	.222	.601	.142	.089	-.039	3.26
家事は男女の共同作業となるべきである	.011	-.585	-.033	.061	.272	4.13
一家の生計を支えられないような経済力の男性は、男として失格である	.152	.455	.218	.414	.078	3.00
女性は男性にくらべ、感情的である	.141	.164	.776	.052	-.037	2.59
男性と女性は本質的に違う	-.043	.073	.748	.273	-.039	2.18
人前では、妻は夫を立てたほうがよい	.193	-.089	.147	.662	.164	2.62
女が人前でタバコを吸うのは好ましくない	.032	.327	.134	.548	-.057	2.50
女性は子どもが生まれても、仕事を続けたほうがよい	.007	-.112	-.218	.193	.803	3.42
結婚後、妻は必ずしも夫の姓を名乗る必要はなく、旧姓で通してもよい	-.213	-.329	.314	-.286	.602	3.33

※「家事は男女の共同作業となるべきである」「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大切である」はN=149

※1...「そう思う」、2...「ややそう思う」、3...「どちらともいえない」、

4...「あまりそう思わない」、5...「そう思わない」

図表-19. 因子分析結果-2

因子(平方和、寄与率)	因子の内容
第1因子 性別役割分業 (4.101、20.427%)	「結婚生活の重要事項は夫が決めるべき」「女性は家庭、男性は職場」「男は男らしく、女は女らしく育てる」「女性は結婚が難しくなる職業には就かない方がよい」「子育ては女性にとって一番のキャリア」「家庭のこまごまとした管理は女性」「社会のあらゆる場で男性が優位なのはやむをえない」
第2因子 男性の在り方 (1.820、10.448%)	「男性は弱音を吐くものではない」「家事は男女の共同作業」「経済力のない男性は男として失格」
第3因子 男女の相違点 (1.293、9.203%)	「女性は男性にくらべ感情的」「男性と女性は本質的に違う」
第4因子 女性の在り方 (1.119、9.135%)	「人前では妻は夫を立てるべき」「女性は人前でタバコを吸うのは好ましくない」
第5因子 結婚・出産後の女性 (1.001、9.124%)	「女性は子どもが生まれても、仕事を続けたほうがよい」「結婚後、妻は旧姓で通してもよい」

※平方和と寄与率ハバリマックス回転後の値である。

寄与率の合計は58.3%である。

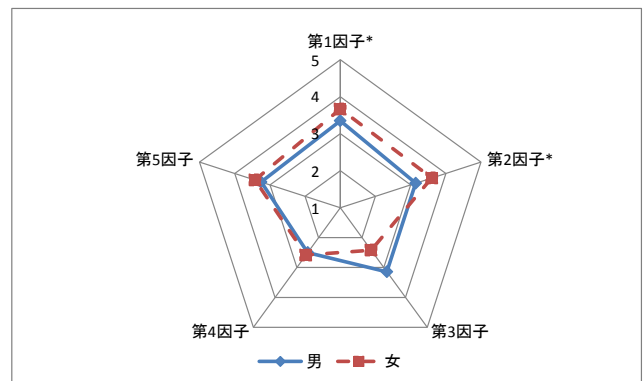
図表-20、図表-21は第1因子を構成している「結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである」や「女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職場である」など7項目の平均値をグラフ化したものである。以下第2因子から第5因子まで同様である。

図表-20は平均値を男女別に示したものである。ジェンダー規範に対する考えでは、第1因子の「性別役割分業」と第2因子の「男性の在り方」に男女で有意な差が見られた。

「性別役割分業」に関しては、男性の平均値が3.35で女性の平均値が3.66であった。男性のほうが女性に比べて、性別役割分業に対して固定観念が強いことが分かる。

「男性の在り方」に関しては、男性の平均値が3.14で女性の平均値が3.60であった。男性のほうが女性に比べて、男性の在り方に対する固定観念が強いことが分かる。

図表-20. 【男女別】平均値 (N=150)

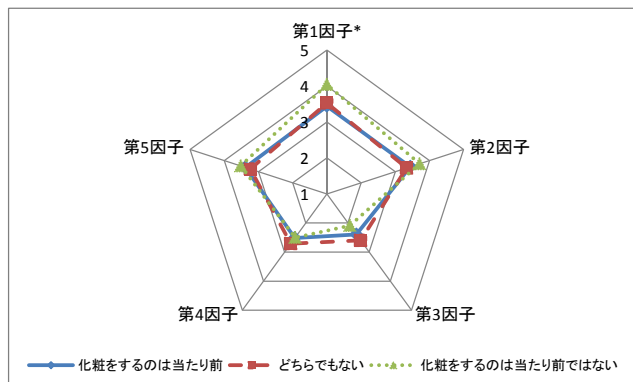


※「第1因子」「第2因子」はN=149

図表-21 は平均値を女性が化粧をすることに関して、「女性は化粧をするのは当たり前である」かどうかの回答別に示したものである。「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した人は「化粧をするのは当たり前」とし、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」と回答した人は「化粧をするのは当たり前ではない」とし、「どちらでもない」と回答した人も含めて3通りに分けて分析した。その結果、第1因子の「性別役割分業」に有意な差が見られた。

「化粧をするのは当たり前」と考えている人の平均値は3.44、「どちらでもない」と考えている人の平均値は3.52、「化粧をするのは当たり前ではない」と考えている人の平均値は4.04であった。「化粧をするのは当たり前」と考えている人は「性別役割分業」への固定観念が強いことがこの結果から分かる。

図表-21 【化粧行動の考え方別】平均値 (N=150)



※「第1因子」「第2因子」はN=149

#### 4. まとめ

本調査は、大学生の化粧行動に関する性差の要因について検討してきた。要因を調査するに当たって大学生の化粧行動の現状について調査した結果、やはり化粧をしている大学生の大半が女性であった。男性が化粧をしない理由として男性は化粧をするべきではないと考えている人が多いことがわかった。さらに、自分が女性であった場合は化粧をすると答えた人が半数を超え、化粧をしないと答えた人はいなかった。男女ともに考え方が化粧をするのは女性であるという固定観念が働いていることが考えられる。男性の化粧行動に関しては、芸能人や外国人よりも友人という身近な存在のほうが常識はずれと感じる人が多く、おしゃれと感じる人は少なかった。

化粧行動に関する要因として考えていたのが、大きく分

けて「ジェンダー規範」の影響と「対人魅力」の違いによる2つである。

「ジェンダー規範」については尺度を用いて、因子分析を行い、因子ごとに平均値を見てきた。男女別に平均値を比べた際には、「性別役割分業」における有意差が、化粧行動の考え方別に平均値を比べた際にも「性別役割分業」に有意差が見られたことから、少なくとも「ジェンダー規範」の中で「性別役割分業」の考え方の違いは男女の化粧行動に影響を与えていることが推測できる。

「対人魅力」については、カイ<sup>2</sup>乗検定を行い男女差に関連があり、男女で異性に対する対人魅力を感じる箇所は異なることが分かったが、化粧行動に直接関係があると考えられる顔立ちや肌のきれいさなどには大きな違いは見られなかった。同性、異性から感じる魅力には、性差よりも個人差が大きく働いていることが考えられる。

#### 引用文献

- 1)伊藤愛、伊藤裕子(2009)「女子学生における自己魅力意識と対人態度との関連—異性・同性・社会場面における比較」
- 2)鈴木淳子(1994)「平等主義的性役割態度スケール短縮版」
- 3)伊藤裕子(1997)「高校生における性差観の形成環境と性役割選択：性差観スケール(SGC)作成の試み」
- 4)大坊郁夫(2001)「化粧行動の社会心理学—化粧する人間のこころと行動」(シリーズ21世紀の社会心理学)北大路書房
- 5)内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」
- 6)内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成25年版」
- 7)経済産業省「化学工業統計」
- 8)中村陽吉(1972)「心理学的社会心理学」光生館



## 「大学生の意識調査」

2015年12月

所属先：文教大学情報学部広報学科3年「社会調査Ⅲ」  
調査員氏名：菊地美香子  
担当教員：日吉昭彦

このたびは授業の一環として大学生の意識調査を行うことになりました。回答者のプライバシー保護に配慮し、ご回答はすべて統計的に処理しますのでご迷惑をおかけすることはありません。ぜひとも率直なご意見をお聞かせください。お忙しいところ誠に申し訳ありませんが、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

### 【ご記入にあたってのお願い】

- (1) 調査には、必ず調査票を受け取った本人がご回答・ご記入ください。
- (2) お答えになりにくい質問については無記入でも結構です。
- (3) 質問への回答は、特に指示のない限りあてはまる回答選択肢の項目番号に○をつけてください。
- (4) 質問は全部で11問、回答にかかると時間は10分～15分です。
- (5) ご記入は、鉛筆あるいは黒か書のボールペンなどをお願いします。また、回答を訂正する場合は、前の回答を消しゴムで消すか、×印をつけるなどして、訂正したことを明示してください。
- (6) 設問の内容など、不明な点がございましたら、近くの調査員にお尋ねください。

設問に“化粧”という言葉がありますが本調査では化粧品を用いて顔(目、眉毛、まつ毛、唇、肌など)に意図的に手を加えることとします。本調査ではネイル、スキンケアなどは化粧に含まれません。

Q1. あなたの性別を教えてください。

(1) 男 29.3 (2) 女 70.7

Q2. あなたの年齢を教えてください。

平均 19.8 歳

Q3. あなたは女性が化粧をすることに対してどう考えますか。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	当てはまらない
1. 女性が毎日化粧するのは当たり前である	19.3	38.0	24.0	12.7	6.0
2. 女性の多くは化粧をしている	61.3	38.0	0.7	0.0	0.0
3. 女性は化粧をしたほうがかわいく見える	32.0	40.0	20.7	6.7	0.7
4. 女性は化粧をしたほうがきれいいに見える	39.3	40.7	14.0	5.3	0.0
5. 化粧をしている女性のほうが好き	15.3	25.3	45.3	10.7	3.3
6. 化粧をしている女性はきちんとした印象を受ける	34.7	46.7	13.3	4.7	0.7

Q4. あなたは以下の状況の時に女性は化粧をすべきだと思いますか。

	そう思う	ややそう思う	どちらでもよい	あまりそう思わない	そう思わない
1. デートをするとき	55.3	30.7	12.7	0.7	0.7
2. 家にいるとき	0.0	2.0	25.3	24.0	48.0
3. 勤務中(アルバイト、会社)	50.0	36.0	11.3	1.3	1.3
4. 友人と外出するとき	34.0	38.0	26.0	0.7	0.7
5. 家族と外出するとき	16.0	28.0	44.7	8.0	2.7

Q5. 近年では男性用の化粧品も販売されており、化粧をする男性も見られます。あなたは化粧する**男性**についてどう考えますか。

1. 芸能人の場合

常識はずれである	当てはまる： 1 (2.7) - 2 (8.7) - 3 (28.7) - 4 (27.3) - 5 (32.7) : 当てはまらない
おしゃやれである	当てはまる： 1 (11.3) - 2 (23.3) - 3 (42.7) - 4 (14.0) - 5 (8.7) : 当てはまらない

2. 外国人の場合

常識はずれである	当てはまる： 1 (2.7) - 2 (6.7) - 3 (37.3) - 4 (24.0) - 5 (28.7) : 当てはまらない
おしゃやれである	当てはまる： 1 (10.0) - 2 (21.3) - 3 (46.7) - 4 (9.3) - 5 (12.0) : 当てはまらない

3. 友人の場合

常識はずれである	当てはまる： 1 (7.3) - 2 (10.7) - 3 (34.0) - 4 (26.7) - 5 (20.7) : 当てはまらない
おしゃやれである	当てはまる： 1 (7.3) - 2 (15.3) - 3 (44.7) - 4 (16.0) - 5 (16.0) : 当てはまらない

Q6. あなたはどんな人が魅力的だと思いますか。あなたが魅力を感じる順に**1から5まで番号を**つけてください。選ばなかった選択肢は空欄のままにしてください。

(例)	同性	異性
顔立ちが整っている	18.7	21.3
清潔感がある	24.7	30.0
目がぱっちりとしている	2.7	4.0
スタイルがいい	5.3	4.7
品がある	6.7	5.3
服のセンスがいい	4.7	4.7
感情表現が豊かである	10.0	6.0
肌がきれい	2.0	2.0
にこやかな印象を受ける	24.7	20.7
髪がきれい	0.7	1.3

※1 とつけた選択肢

\*以下の質問ではあなた自身のことについてお聞きします。

Q7. あなたは化粧をしますか。

(1)はい	69.3	(2)いいえ	30.7
-------	------	--------	------

※(2)いいえと答えた人は Q9 へ

Q8. Q7で(1)はいと答えた人にお聞きします。

普段化粧をする頻度はどのくらいですか。また、それはいつですか。

頻度	(1)毎日	27.3	(2)週6回～週4回	36.7	(3)週3回～週1回	4.0
	(4)月に数回	0.7	(5)年に数回	0.7		
いつ	(1)常にしている	6.7	(2)出かけるときにしている	39.3		
	(3)人に会うときにしている	8.0	(4)出かける場所によっては	8.0		
	(5)会う人によっては	2.0	(6)その他	0.7	( )	

Q8-1. あなたはいつごろから化粧をするようになりましたか。

(1)中学生より前から	0.0	(2)中学生のころから	10.7	(3)高校生のころから	22.7
(4)大学生になってから	35.3	(5)最近	0.7		

Q8-2. あなたが化粧をする理由は何ですか。

(1)自分を可愛くみせたいから	20.0	(2)自分をかっこよくみせたいから	2.0
(3)まわりがしているから	8.7	(4)大人になったら化粧はするものだから	14.0
(5)化粧をしたほうがいいと言われたことがあるから	4.7	(6)なんとなく	10.0
(7)その他	5.3	( )	

※男性は Q10 へ、女性 は Q11 へ

Q9. Q7で(2)いいえと答えた人にお聞きします。

あなたが化粧をしない理由は何ですか。

(1)面倒だから	3.3	(2)時間がないから	1.3	(3)化粧品が高いから	0.0
(4)肌荒れが気になるから	2.0	(5)男性はしないものだから	16.7	(6)なんとなく	6.0
(7)その他	0.7	( )			

※女性 は Q11 へ

Q10. 男性にお聞きします。

あなたが女性であった場合、化粧をしますか。

(1)はい	22.0	(2)いいえ	7.3	(3)わからない	70.7
-------	------	--------	-----	----------	------

Q11. 以下の1～15の各文章についてどう思いますか。当てはまるものに○をつけてください。

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
家庭のごまごまとした管理は、女性でなくては、と思う	3.3	26.7	25.3	31.3	1.3
結婚生活の重要事項は夫が決めるべきである	2.0	10.0	22.7	36.0	29.3
女性の居るべき場所は家庭であり、男性の居るべき場所は職場である	2.7	10.0	13.3	34.7	39.3
女性は男性にくらべ、感情的である	15.3	36.0	28.0	15.3	5.3
家事は男女の共同作業となるべきである	40.7	39.3	13.3	4.0	2.0
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てることが非常に大切である	4.0	24.0	24.7	30.7	16.0
体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない	2.7	20.0	22.0	35.3	20.0
子育ては女性にとって一番大切なキャリアである	8.7	30.0	26.7	22.7	12.0
女が人前でタバコを吸うのは好ましくない	26.0	28.7	23.3	13.3	8.7
一家の生計を支えられないような経済力のない男性は、男として失格である	8.7	26.7	30.7	24.0	10.0
女性が社会的地位や賃金の高い職業を持つと結婚するのがむずかしくなるから、そういう職業を持たない方がよい	0.7	4.7	15.3	37.3	42.0
男性と女性は本質的に違う	30.0	36.7	21.3	9.3	2.7
人前では、妻は夫を立てたほうがよい	14.7	32.7	35.3	10.7	6.7
結婚後、妻は必ずしも夫の姓を名乗る必要はなく、旧姓で通してもよい	13.3	34.0	31.3	14.7	6.7
女性はこどもが生まれても、仕事を続けたほうがよい	12.7	26.0	53.3	6.7	1.3
男はむやみやみに弱音を吐くものではない	10.7	20.7	21.3	26.7	20.7

調査は以上になります。ご協力ありがとうございます。